

# 検査における造影剤使用に関する説明及び同意書

造影検査を行う際、あらかじめ同意書に、ご記入頂いております。以下の項目をお読みにになり、ご不明な点は担当医、看護師に質問し、納得いただけましたらご署名をお願いします。

## 1. 造影剤とは

画像診断の情報量を増やすために画像コントラストをつける検査薬で、通常静脈内に投与します。検査では、水溶性ヨード造影剤またはガドリニウム造影剤が使われ、腎機能が正常であれば6時間で約90%が腎臓から尿として排泄され、やがてすべてが体外へ排出されます。

## 2. 造影剤使用の利点

静脈内に注入された造影剤は、血管を介して全身の臓器に分布します。したがって血管腔の状態、臓器の血流の状態、及び病変での造影剤の分布がわかり、画像診断上、重要な情報となる事があります。

## 3. どのような人でも造影検査はできるのか

アレルギー体質の方は副作用を生じる可能性が約3倍多いといわれ中でも喘息の方は10倍といわれています。

次に該当する方は造影検査の前に主治医にお知らせください。

- A. 以前、造影検査をした際、気分が悪くなったことがある。
- B. 甲状腺の病気がある。
- C. 本人または血縁者に喘息やアレルギーの方がいる。
- D. 心臓の病気がある。
- E. 肝臓の病気がある。
- F. 腎臓の病気がある。
- G. マクログロブリン血症の方。
- H. 多発性骨髄腫の方。
- I. テタニーのある方。
- J. 褐色細胞腫及びその疑いのある方。
- K. 糖尿病の方で、ビグアナイド系の経口血糖下降剤を内服されている方、内服されている可能性のある方。

## 4. 造影剤の副作用について

最近では、副作用の少ないものが開発され使用しておりますが、それでも全く危険性をなくすことはできません。軽いものを含め約3%の方に何らかの副作用が生じます。副作用には検査中や直後に生じる即時性のもの、検査終了後数時間から数日後に起きる遅発性のものがあります。

### A. 即時性副作用

ほとんどが吐き気、かゆみ、発疹、動悸、頭痛などの軽いものです。しかし、まれに冷や汗が出たり、胸が苦しくなったりすることがあります。また、1万人に4人程度の割合でショックなどの重篤な副作用を生じることがあります。極めてまれですが、死に至る報告もあります。

### B. 遅発性副作用

まれに、検査終了後数時間から数日後に体のだるさ、頭痛、じんましんが出ることがあります。

## 5. 造影剤の血管外漏出について

造影剤注入時は血管に圧力がかかり、まれに血管外漏出(もれ)が起こる事があります(0.3~0.9%)。注入時に痛みが強くなってきたら速やかに検査担当技師・看護師にお伝えください。

### A. 血管外漏出時の症状

数日は腫脹(ハレ)が大きくなりますが、ほとんどの場合、時間と共に改善します。疼痛、腫脹、水泡などのほかにまれですが重篤例では潰瘍の形成やコンパートメント症候群(組織、血管、神経の壊死や機能障害)などが報告されています。

### B. 血管外漏出時の処置

漏出の見られた四肢を挙上。疼痛、腫脹に対して冷罨法(氷、シップで冷やす)。皮膚障害の軽減のため冷罨法、ステロイド剤の外用、あるいは内用。水泡が持続する場合、穿刺排液。重篤化すれば皮膚科、形成外科で処置(切開等)を要する事もありますが、ほとんどは軽度であり、時間はかかるもののシップで軽快します。

## 6. 緊急時の対応について

### A. 即時性副作用

検査中は技師と看護師が緊急対応できるよう控えております。予期せぬ事態が起こった場合、医師、看護師が至急に対応いたします。

### B. 遅発性副作用

検査終了後数時間から数日後に上記のような症状や何か異常があった場合、当院へ連絡をお願いします。

以上の説明に納得いただけましたら、同意書にご署名をお願いします。

---

## 造影剤使用の同意書

私は、造影剤の必要性と副作用について説明しました。

医師

私は、今回の造影検査に関して、主治医より上記の説明を受け、質問する機会を与えられ、了承しましたので(MRI・CT)検査に際し、必要に応じて造影剤の投与を受ける事に同意します。

東都春日部病院 院長

年 月 日

患者氏名

印

代理人氏名(続柄)

印

予約日時決定後こちらの書類もFAXしてください。

# MRI造影検査依頼書(依頼医師記載)

造影剤を使用した検査には一定のリスクがあります。安全な造影検査を施行するために下記の点をご留意の上  
ご記入、チェックボックスにチェックを入れてください

直近3ヶ月以内(できれば検査直前)の血清クレアチニン値をご記入ください

クレアチニン mg/dl

## ① 禁忌項目・原則禁忌項目

・過去にガドリニウム造影剤で中等度(広範囲の発疹など)以上の副作用が出た事がある あり なし

\* 過去の副作用歴がある場合、副作用発現率は20%以上とされています

・重篤な腎障害 あり なし

\* eGFR30以下あるいは透析患者様では腎性全身性線維症(NSF)のリスクが報告され、造影剤の使用は禁忌です

・気管支喘息 重篤副作用の発生率は10倍程度になるとされています あり なし

\* 気管支喘息の患者では副作用発現率が有意に上昇するとされています

・重篤な肝障害 あり なし

## ② 服用している薬がある

ある場合は下記に記入またはお薬手帳の持参またはコピーを添付してください

[  
  
]

## ③ 注意点

・現在、授乳中である あり なし

授乳中の場合、投与後24時間の授乳禁止の指示 済み

\* 造影剤の母乳への移行が報告されています

上記チェックの内容によっては造影検査を施行できないことがありますのでご了解ください。また、水分制限による脱水は副作用リスクが高くなるとされていますので、十分な水分摂取をご指示ください

患者氏名 \_\_\_\_\_

依頼施設名 \_\_\_\_\_

担当医師名 \_\_\_\_\_

予約日時決定後こちらの書類もFAXしてください